

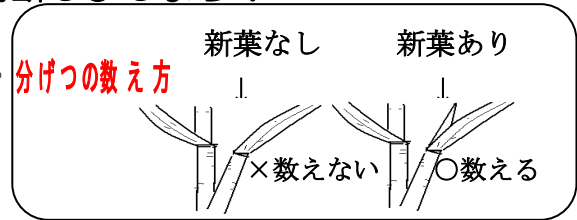
### 確実な溝切り・中干しで品質・収量を確保！

#### ①中干しまでの水管理 ☆分げつの発生を促し、良質茎を確保しましょう！

- 遅植えで生育が遅れている水田は、浅水管理（3cm程度）で分げつの発生を促進しましょう。
- ワキの発生が多い予想です。ワキは根を傷め、生育が停滞して茎数が増えにくくなります。  
ワキや表層はく離の発生水田は、すぐに水の更新や夜間落水を行い、根の健全化に努めましょう。

#### ②中 干 し ☆茎数を数え、中干し開始時期を判断しましょう！

- 目標穂数の7～8割の茎数になったら中干しを開始します。
- 遅くとも田植後30日までに中干しを開始しましょう。
- 中干しは田面に小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度とし、  
 出穂1か月前までに終了しましょう。
- 中干しが遅れると乳白粒及び心白粒が多発し、品質が低下する。



品 種	栽植密度 (株/坪)	開始のめやす (茎数)	
		(本/m <sup>2</sup> )	(本/株)
コシヒカリ	50	280	18
	60		15
こしいぶき	60	320	21
新之助	50	320	21

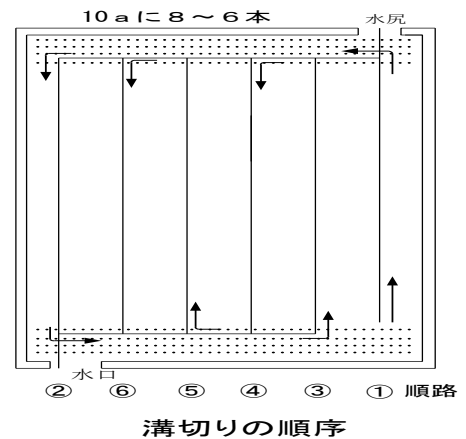


**中干し効果** 1. 無効茎の発生抑制（過剰生育防止） 2. 下位節間の伸長抑制と良質茎による倒伏軽減  
 3. 土への酸素補給で根の生育健全化 4. 収穫時の機械作業が可能な地耐力の確保

#### ③溝 切 り

- 落水してから、田面がやや固まった状態で作業を行いましょ。
- 溝の間隔は2.5m程度（8～10条間隔）程度、深さは10cm以上を確保し、各溝の末端は必ず排水溝につなげましょ。

**溝切り効果** 1. フェーン等の緊急時の迅速な灌水が可能となる。  
 2. 秋の長雨による停滞水の容易な排水が可能となる。



#### ④中干し後の水管理

- 中干し直後は発根促進や根の活力維持のため浅水の間断かん水とし、徐々に飽水管理(自然落水で溝や足跡の底に水が溜まる状態が散見されたら灌水)に移行ましょ。